



看護用品の解説

往診で使っていたステンレス製の舌圧子と舌圧子入れ。舌圧子入れは5，6枚の舌圧子を入れることができ，2段構造になっていた。

看護用品にまつわるエピソード

上の段には煮沸消毒済みの舌圧子を入れて，下の段には使用後の不潔な舌圧子を入れて区別し，帰院後看護婦が煮沸消毒を行っていた。舌圧子入れはステンレス製のため錆が出てくることもあり，その都度磨いて錆を取り除いていた。

(嘉陽サチ子氏・吉田春子氏，2003)

解説

ステンレス製の舌圧子は洗浄，消毒にコストはかかるが木製の舌圧子に比較すると折れにくく，素材の性質上，なめらかさがあり，患者への安全性や舌への感触においては良いと思われる。一方，木製の舌圧子は一本ずつ滅菌包装され，持ち運びも手軽で，使い捨てであり感染予防の観点からはステンレスの舌圧子より推奨される。当時は，現在の様に使い捨ての医療用品が多くあるのではなく，再生して使用する物品が主であった。使用後のステンレス製舌圧子入れは再度使用するために使用後毎に煮沸消毒し，磨いて，錆を落としたりするのなど，丁寧に物品を取り扱って，管理していたことがわかる。看護者の物品管理の一部分をステンレスの舌圧子の取り扱いから伺える。

(金城忍，安里葉子，2004)